

あさかぜ

高知学芸高等学校同窓会関東支部

機関誌 26号

2013.9

〒263-0005

千葉県千葉市稲毛区

長沼町263-16-3 石川明男

TEL 043 (257) 2614

FAX 043 (257) 2614

第26回 関東同窓会のご案内

28期 谷本 拓郎

こんにちは、28期 谷本拓郎です。この度は28期が幹事期ということで、私が代表幹事の役を賜りました。

紙面の関係上自己紹介は割愛しますが、1997年 私はロサンゼルスで留学していましたがシンガポール人のクラスメートから、「日本のどこ出身なの?」と聞かれました。

「South Part (南の方)」と答えましたが、「何というところ?」としつこく聞かれ「K O C H I」と答えました。外国人から見ると日本は「東京」、「大阪」や「それ以外」に括弧されていると思っていましたが、観察力のある外国人は興味を持って、日本の地域、文化分析をしてくれました。卒業以来あまり「土佐人」という意識が薄れていましたが、この頃から、やはり自分は「土佐人」だと再認識しました。学芸の頃は中学では寮に入っていて、勉強・規則等で振り返ると自分の人生で一番暗く苦しい時期でしたが、やはり幼少時代から18歳まで過ごした自分のルーツ土佐からは離れられないですね。今振り返ると中学、高校の厳しい規則も自分に上下関係の礼儀、規律を備えてくれたいい体験だったと思います。そして、シンガポール人に質問を受けたところから吹っ切れて少し気心の知れた人から国を聞



28期、八重桜の見えるレストランで26年ぶりの再会(4月)

かれると「自分は土佐の芋堀りです」と答えるようにしています(必ず「笑い」がとれます、少なくとも苦笑は!)。さて、今回10月26日(土)開催の関東同窓会を楽しく、魅力あるものにするように28期数人と集まり考えてきました。また、初夏の休日の日、車の運転をしながら以下の通り考えをまとめた学芸関東支部同窓会参加の8つのメリット(龍馬の「船中八策」に対抗した)「車中八策」を紹介します。

その1 懐かしの同窓友人、先輩、後輩に会える(あの気になる人はどのような姿、性格になったかな?)

その2 懐かしの先生に会える

その3 世代を超えた同郷との新たな出会いのチャンス(一生繋がる新たな出会いがあるかも!)

その4 学芸現役物理「坂本和幸」先生の、ガリレオ「真夏の方程式」に続く、物理授業「清秋の方程式」講演

その5 28期の中でも、最もCool or Hotな(どっちや?) 現役ミュージシャン近藤将大氏の生演奏が聴ける

その6 「高知横断ウルトラクイズ」に参加し、高知往復の助けになる旅行券、郷土品等景品ゲット(暫く帰高してこないあなたへ、帰高のチャンスですよ!)

その7 錆びついた土佐弁のトレーニングができる(思う存分土佐弁しゃべり元気ができます!)

その8 85年の歴史ある(1928年(昭和3年))学芸会館(2003年(平成15年))1月、国の有形文化財に登録)でのパーティー(歴史とともに学問の重要性について感じて、考えましょう。生涯「学び」が大切です。)

この中で一つでも、興味あるかな?と思えば、是非参加ください。10月26日お会いできることを楽しみにしています(待ちゆうで)。

(注)企画内容は都合により一部変更になることがありますので予めご了承ください。

第25回 関東支部総会 開催

2012年10月27日



2012年10月27日(土)、高知学芸高校同窓会関東支部の第25回総会は神田神保町にある伝統と格式の高い「学士会館」に会場を移し開催された。

学校からは、村岡高光校長、村田啓子教頭(英語)、森下表先生(社会・同窓会副会長兼任)、蒲原宜彦先生(英語・同窓会会計兼任)の先生方が、高知の同窓会本部からは、西川博行新同窓会長

(6期)、福田恵美副会長(6期)、森木弘道顧問(2期前同窓会長)の7人にご出席戴きました。

総会は、幹事の宇陀氏(27期)の司会でスタート。まず、細川支部長からの挨拶の後、会計担当の筒井さん(14期)から昨年度の活動状況と会計報告が行なわれた。収入の部は230万4730円、支出の部は148万3773円で残金は82万6957円。引き続き会計監査の戸田氏(17期)から監査報告があり、原案通り承認された。(内容については14ページを参照下さい)

また、石川副支部長から関東支部会則の修正について説明があり、議事は終了。(会則は関東支部のHPに掲載)

その後、来賓の高知の同窓会本部の西川新同窓会長から

「8月の同窓会総会で会長に就任いたしました6期の西川でござい



西川新同窓会長

ます。15年の長きに亘りご尽力いただきました森木前会長に敬意を表し感謝いたします。私はこれから同窓会活動にはとことん頑張る決意ですので、皆様のご支援、ご指導よろしく願います」と挨拶された。

その後、森木顧問(前同窓会長2期)から感謝のご挨拶と村岡校長からのご挨拶があり、総会の第一部は終了した。



村岡校長と森木前同窓会長

第二部の司会は、幹事の高木理砂さん(27期)にバトンタッチし特別授業が行われた。講師は上海列車事故でお亡くなりになられた剣道日本一の川添哲夫先生の奥様であり、ご自身も平成3〜20年まで保健体育と剣道部の指導をされた川添永子先生による特別授業が行われた。(特別授業の内容は、3〜5ページに掲載してありますので是非お読みください)

また、特別企画として、作詩家

の紺野あずささん(6期)から上海列車事故を悼む歌である「さよならは言わない」を作詞したきっかけや作曲に至った経緯などについてお話をして戴きました。この「さよならは言わない」の歌は、1999年の高知での追悼会でお披露目され、2002年の第15回関東支部の同窓会から大切に歌い繋がれています。

最後に、紺野あずささんを真中に幹事の27期のメンバーのリードにより全員で「さよならは言わない」を歌い、第二部は終了した。



紺野あずささんと「さよならは言わない」を歌い繋ぐ

特別講演

川添 永子 先生 (保体)

上海列車事故で亡くなられた川添哲夫先生の教え子や学校関係者が大勢集まった学士会館。教職を退かれて5年となった川添永子先生が、ご主人の川添先生に関する話を中心に、特別講演をしてくださいました。あまりにも素晴らしく拍手喝采であった講演の内容を一部省略して掲載させていただきます。

〜永子先生への感謝をこめて〜

人生は一本勝負、

毎日を明るく楽しく

元氣よく

私は小学校4年生から剣道を始めました。当時の昭和35年頃は女の子が剣道をするのは、まだ珍しいことでした。うちの父親は、熊本でいうところの「もっこす」でして、家の中のことは何でも自分の思い通りに動かす人です。私は三人姉妹の真ん中でとてもお転婆でした。父は獣医をしましたので、その頃は我が家に牛や馬がよ



く連れてこられてました。馬の診察が終わった後、「おじさん、今まで連れて行って」と言って、馬の背中にひよいと乗り、帰りは自転車に乗せてもらって家に帰ってくるといふくらいのお転婆でしたから、父は「この子には何かさせなければいけない」と思い、剣道を始めさせたのかもしれない。小学生の頃は男子より女子の方が背も高くてもあります。5年生の時に参加した学年別選手権は男子ばかりの中で女子たった一人でしたが、たまたま優勝してしまいました。父や先生は私をもっと強くしようと思ったようで、進級する中学校には剣道の先生がおらず、父や先生が教育委員会にお願いして、天草から優秀な先生を連れてきてもらいました。中学には部室も道場もなく、体育館を使わ

せてもらえるのは週に1回か2回、普段は教室の椅子と机を後ろへ寄せて練習をしていました。このままではものにならないということ、高校生や一般の方が練習している道場に週に3回くらい行かせられました。

高校進学の時には、獣医になって親を継ぎたいという思いもあつたのですが、剣道の名門で優秀な監督がいる八代東高校しか許してもらえませんでした。父は「女子は足腰が一番に弱ってくる、それをカバーするには階段上りしかない」というのが持論で、近くの神社にある250段の細い階段を毎朝、往復4回、上らされました。最初は面白がって上っていました。が、起こされるのは朝5時半です。さすがに雨や雪の時はやらないだろうと思ったら、合羽を着れば上れる、スコップで雪かきすれば上れる、といった具合で、地獄のような毎日でした。父がいなければと思ったことは何度もありました。が、今になれば、階段上りが剣道での良い成績につながったと思います。すべてのことにおいて、人並みのことをしていたのでは、人並みにしかなれないと、つくづく感じるようになりました。生徒に對しても、強くなりたかったら、それなりに自分で努力をしなくてはならないと言っています。縄跳

びなら狭い場所でもできるとか、つま先でずつと歩くとか、汽車やバスの中で屈伸をするとか、自分で工夫できることはいろいろあります。そうしたちよつとしたヒントを生徒に伝えてあげられればいいなと思います。

高校ではインターハイを2連覇することができましたが、一番の思い出は、九州だけで行われていた団体戦で優勝したこと。当時は個人戦ばかりで団体戦は他にありませんでしたから、大きな優勝旗をもらったのが、とても嬉しく感じられました。個人でもらうのももちろん嬉しいですが、皆でもらうのはやはり嬉しいものです。





大学は、父から国士館大学に入らないと強くなれないと言われ、そこに入ることになりました。父は「もっこす」ですから「女が4年も大学に行ったら、口で男を使うようになる。やっぱり女は男に仕えないかん。だから2年で結構」と。私は体育の先生になるのが夢でしたので、同じ短期で中学校の体育教員免許がもらえる日体大に行きたいと思い、内緒で願書を取り寄せましたが、送ろうとした時に父に見つかってしまいました。目の前で願書をびりりと破られた時には、ああと思いました。が、おかげさまで国士館は入学金、授業料、寮費すべて免除、男女一人ずつしかない特待Aで入学し、お小遣いだけで行けたのは良かったです。ただ、もの凄いプレッシャーです。これほどの優遇で入

学させてもらったのであれば、それだけのものを学校に返さなければという意識が強かったですから。入学した時の剣道部は500名、その中で女子は25名で全員が寮生。学校生活は軍隊式で厳しい練習に耐え色々な人生経験をさせていただきました。

大学時代の昭和44年、45年、そして卒業後の46年の全日本選手権を3連覇できたのは、やはり階段上りさせてもらった父のおかげと、厳しい練習の大学で一生懸命に指導していただいたおかげだと思えます。6年ほど前に警視庁の方が3連覇しましたが、今でも女子では私と2名だけです。その3連覇を成し遂げた年にNHKから紅白歌合戦の審査員のお声がかかり、会場となっていた帝国ホテルに泊まることができ、先代の貴乃花やボクシングの大場選手といった芸能人の方と写真を一緒に撮らせていただいたりして、普通ではなかなかない体験ができたことも厳しい練習に耐え、努力した結果であつたかなと思います。

川添哲夫先生のこと

これからようやく主人の話になります。長らくお待ちいたしました(笑)。主人とは大学で知り

合ったのですが、私は1年生、主人は2年生でした。一番身近だったのは2年生の方たちで、先輩、先輩といつもおじぎしていました。川添先輩が同じ大学にいたのかといった程度でしか知りませんでした。夏休み合宿で、納涼船で佐渡島に日帰レクリエーションがあり、苦手な雷がひどく鳴っていて、船のデッキでずっと波を見てましたら、川添先輩が何か悩みがあるんじゃないかと話しかけてきました。名前は言いませんでしたが、実は同級生からしつこく交際を申し込まれていると話したら、心当たりの何人かに「桑原(旧姓)には絶対に近寄るな」と言ってくれたようです。翌日には女子の宿泊所にまで、ちゃんと言いに来てくれました。律儀なところがありませんね。その翌日もまた宿泊所に訪ねてきまして、ちよつと時間があるからと、近くの喫茶店に連れて行かれました。大学は面白いとか、剣道は楽しいかといった話ばかりでしたけど。

2学期になって道場通いが始まったのですが、今みたいに携帯はなく、なかなか連絡の取りようがない時代です。皆さんは真面目な二人がどうやって連絡したと思いますか？剣道をやっていたら分かると思いますが、「たれネーム」というものがありまして、これが袋のようになっています。そこに小さな紙を入れておいて、練習の最中にすばやく交換して連絡を取り合っていました。練習が終わった後、点呼まで10分かくらいの時間しかありませんでしたが、毎日、すぐ近くの喫茶店で話をしました。回を重ねるうちに、もし先生に注意をされても、お互いに剣道はがんばるので交際を許してくださいとお願ひしようじゃないか、という事で付き合うようになりました。主人は本当に律儀で、見つかるよりも自分の方から先に言いに行くと言って、報告したようです。幸い、先生は理解のある方で、それなら二人で家に食べに来いと、食事に呼ばれたり、周囲からは暖かく見守ってもらいながらのお付き合いでした。

私が卒業する時に、結婚の話を



父にしたいということ、春休み
に八代まで来てくれました。私は
ちよつと無理じゃないかなと心配
していましたが、「どうかよろし
くお願いします」と頭を下げたら
案の定、「うちの娘は剣道の日本
一を3回取った。それに見合う相
手を探さないといかんから、今は
認めるわけにはいかん」と言われ
て帰されました。それで主人は
んばらなければという気持ちに
なったのでしよう。それから階
段上ったり、縄跳びや素振りをし
たり、「すごく努力をしていたよ」と
主人の同級生から聞きました。
それから2年後、大学4年生の時
に、大学生では初めてでしたが、
東京都の代表となって全日本に出
ることになりました。順調に勝ち
進み、ついに決勝戦を勝ってしま
いました。これは運命か何かは分
かりませんが、日本一になったわ
けです。さすがに父もぐうの音も
出ません。自分のいる熊本からは
出たくなくて、嫁にやりたくな
いというのは分かっていたのです
が、結婚相手として大丈夫かなと
父にやんわり聞いてみたら、
「うん。しようがないな」と認
めてくれました。卒業後には国体
が近い和歌山の教員に来てほし
いという話があったようですが、和
歌山へ行くことを決める前日に
「教師で来てくれないか」という

話が学芸からあったそうです。主
人は高知に帰りがつてましたの
で、すぐに返事をして、それで学
芸の教師になることが決まったと
聞いています。

昭和50年に三翠園で結婚式を挙
げ、高知で暮らすようになりまし
た。結婚した当時は朝倉の借家に
いましたが、お互いに「お酒を飲
むために剣道をやっているんや」と
言ったりして、毎日、晩酌をし
ながらよく話をしていました。父
からは男性に尽くせよと言われて
ましたから、どうやって尽くそう
かと考えましたが、お酒が好きで
したので、汗を流して帰ってきた
時に、きんきんに冷えたビールを
出すのが一番だなと思ってやっ
てました。グラスを冷凍庫で冷やし
ていて割ったりもしましたが
(笑)。そうした話の中で「人生
は一本勝負だから、どんな時でも
悔いのないようにしないといいな
い」という言葉が強く頭に残って
います。

上海列車事故

上海列車事故の当時は、今のよ
うな中国ではなくて、情報は入ら
ない、電話は通じない、連絡でき
ない、映像も定かでないといった
中で、不安で待っていました。主

人は集合係でいつもハンドマイク
を持っていましたが、ちよつと
入った映像には主人の姿が見えず
別の先生がマイクを持っていまし
た。何人かの先生は現場で救助に
当たっているという話でしたので、
「主人は力が強いので、やっぱり
現場の方にいるんだな」と思い、
子供たちに「お父さんは現場にい
るから大丈夫だよ」と安心するよ
うに声をかけていました。何か感
じるものがあるのでしょうか、下
の子供はずっと震えていました。
その後で死亡が確認されたと聞い
た時、人生の一本勝負の時がやっ
ぱり来たんだなと自分の心に言い
聞かせました。主人のために恥ず
かしくない態度で立派に送り出さ
なければいけないという気持ち
が頭の隅にありました。おかげさ
ま子供たちは大きく育ち、昨日、
次女に初めての子供が生まれまし
た。おかげさまで子供は二人とも
順調に生活しており、私もそれな
りに幸せに暮らせていただいてい
ます。卒業生の皆様にも大変お世
話になり、主人も本当に喜んでい
ることと思います。

主人のおかげ

いろいろな方と話をすると、や
はり主人は偉かったんだと思う

時があります。今日ここに立てた
のも卒業生のおかげです。今日の
特別授業は何も分らず引き受け
たものの、ここに来てみたら大変
なことを引き受けてしまったなど
いう感じがしましたが、久しぶり
に剣道部の教え子の顔も見られ、
大変嬉しく思っております。

人生何事も明るく、楽しく、元
気よく、これが私のモットーです。
人生いろいろな経験をします。
一日一日を明るく楽しく元気よ
く行けば、一日も早いし、一週間
も早いし、一年も早いと思いま
す。毎日を元気に生きますように。
ありがとうございます。



ご講演、ありがとうございました。

【特集】第25回関東支部同窓会・懇親会
～高知からスペシャルゲストも来たぜよ！～



今回から会場を学士会館に変更。
懇親会場は、こんな感じ

懇親会場への移動が終わり、村田教頭先生の
音頭で始まり～



幹事は昨年やったから
今年は楽しむんだもんね～♪



まずは歓談で盛り上がる

そして、お待ちかねの余興 今回は、お名前ビンゴ！ スペシャルゲストは…？



かつお人間に
負けられんき
頑張るで～



今年は25回のお祝いに、高知県のご当地キャラ、くろしおくんが駆けつけてくれました！

司会は27期の川添哲嗣さんと高橋祥子さん。お揃いのTシャツで登場。気合い入ってます。
まずは、くろしおくんの紹介、そしてビンゴのルール説明
くろしおくんも、司会につられて、やる気満々（笑）



ビンゴに当たった方々と記念撮影 なぜか29期が続々と上位当選
総会で特別講演ゲストの川添先生も当選！



恒例の卒業50周年記念品贈呈 今年は4期の方々でした プレゼンターは細川支部長



そして、これも恒例、学芸讃歌の大合唱 27期高橋邦明くんによる特別編集の映像を添えて

いよいよ懇親会もフィナーレ 27期がステージに集合
幹事代表挨拶と28期への引き継ぎ しかし、幹事代表も28期もいない！



なんと、幹事代表は、くろしおくんの中から登場！ 中は暑かった～（代表談）



総会の後も、夜はまだまだ続く…
赤坂見附の祢保希へGO！
（写真は27期と細川支部長と川添永子先生）

【後日談】
28期には引き継ぎを終え、
今年の懇親会に向けて、着々と準備を進めています。

SPECIAL インタビュー

学芸初の大任誕生！

難問山積で大忙し

元厚生労働大臣
政治家・弁護士

細川 律夫氏（3期）

日本列島を揺るがした千年に一度と言われる東日本大震災発生時に厚生労働大臣をされた苦労話や学芸時代のお話も伺いました。

〈細川律夫氏 PROFILE〉

- ・生年月日：1943年8月8日（70歳）
- ・出身地：高知県吾川郡いの町(旧吾北村)
- ・出身校：小川小学校→小川中学校→高知学芸高校→明治大学法学部
- ・職業：元厚生労働大臣
元衆議院議員（7期）
弁護士

【経歴】

明治大学卒業後、司法試験合格、1974年弁護士登録。1981年「越谷総合法律事務所」を開設し、市民法律相談などの活動を続ける。

1990年の衆院選で旧埼玉4区から立候補。3度目の挑戦でトップ当選を果たし以後7期当選（埼玉県3区：草加市・越谷市）。

1996年民主党の結成に参加。

衆議院では環境委員長、予算委員会野党筆頭理事、決算行政監視委員長などを歴任。

2009年厚生労働副大臣、2010年9月厚生労働大臣（～2011年9月）

2012年の衆議院総選挙で民主党への逆風の中、惜敗。現在に至る。



◆3・11の地震発生時には何処で何をなさっていましたか？

参議院決算委員会で建物の3階にいました。そりやもう凄い揺れでした。斜め前に菅総理大臣がいたのですが、身を隠す机がなかった。頭上のシャンデリアが落ちてこないか、総理のことを心配して

ました。揺れが治まってから、すぐ緊急対策本部を立ち上げました。

◆東日本大震災のご苦労は言い尽くせないと思いますが、大変だったことは何でしたか？

大変だったことは沢山ありましたが、計画停電が実施されること、病院には自家発電の装置があるので停電しても対応できますが、実は自宅でも人工呼吸器などを使っている人が1万5千人くらいいるんです。その方々に計画決定から実施までの僅か10時間で知らせなくてはならない。もし一人でも停電の影響で亡くなる方があれば、厚生大臣の私が責任をとらなければならぬと覚悟していました。何とかギリギリで連絡が間に合いました。本当に心配しました。

◆中でも、最も窮地だったと思うことは何でしょう？

原発の施設で働く人は年間100ミリシーベルト以内が労働安全の基準なんです。しかし、福島第一原発がどんどん危なくなってきた、その対応のためには基準の数値を上げなければ作業の継続ができません。状況になってきて、許容量を変えるよう迫られました。厚労省の責任者としては安全面から安

易に基準を上げる訳にはいかないので、ギリギリのせめぎ合いでした。いやあ！あれはキツかったねえ。苦渋の決断でした。

あの時は菅総理と防衛大臣と私の3人で何度も話し合いましたが、私も総理からは随分怒鳴られたものでした。菅総理は「イラカン」って言われていますからね（笑）。

◆厚生労働大臣に任命されたことを海外出張から帰国してマスクの取材を受けるまで知らなかったと聞いていますが、事前に打診などはなかったのですか？

事前の打診は普通はありませんよ。あれは前代未聞の出来事だったかもしれないですね（笑）。あの時は中国訪問しており、午前中に帰国予定だったので、何かのトラブルで飛行機が出ない。機内で2時間ほど待機させられていました。秘書も何とか私に連絡をとろうと苦心したようですが、機内は携帯も使えませんでした。到着が遅れて成田に降りたら、取材陣からカメラが向けられ「大臣就任、おめでとうございます」と言われ、私は法務大臣かなと思ったのですが、厚生大臣だということ、「いやあ、こりや大変だな！」と思ったね。事前に打診があれば断っていたと思うけど、もう発表しちゃうから断る訳にはいかないね。